

■ シンポジウムテーマ

「アーカイブの課題と現状」

いま、〈アーカイブ〉という言葉は、様々な業界において、それぞれの文脈／背景のもとに使用されている。ここでは、それらひとつひとつの〈アーカイブ〉の違いを論じるのではなく、ひろく〈アーカイブ〉もしくは〈アーカイブズ〉と称されるものを対象としたい。〈アーカイブ〉は、ある時点の事象を記録した資料を保存管理する機関を指す場合や、記録資料群そのものを指す場合があるが、社会の中で認知されているのは、記録資料群そのものであるように感じている。それは特に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を受けて、人々の生活が変化した中で、〈アーカイブ〉という言葉が報道記事などで散見されるようになったことに表れているのではないだろうか。

専門家会議の議事録や各種対策決定に至る審議過程についての公文書管理はもちろんのこと、京都大学図書館所蔵資料にある〈アマビエ〉の流行*¹、舞台芸術における過去の映像記録のオンライン配信*²など、これらの報道・発表記事には、しばしば〈アーカイブ〉が使用されていた。そして同時に、この新型コロナウイルス感染症の拡大による社会変化を記録保存する（アーカイブする）動きも博物館などで始まっており*³、市民からの資料提供がなされている。

このように社会的には〈アーカイブ〉という言葉が受け入れられつつあるものの、広く様々な業界において使用される為、その実態は曖昧であり抱える課題も見えづらい。本シンポジウムでは、〈アーカイブ〉の現場で起きている一端を共有し、「アーカイブの課題と現状」を捉えてみたい。

話題提供として、井上透氏には国立科学博物館で取り組まれてきた事例を中心に、博物館におけるアーカイブをご紹介いただく。また、谷合佳代子氏には公文書と対置する、コミュニティや専門家の“草の根的活動”によって成立している「草の根アーカイブズ」についてお話をいただく。そして、ディスカッションでは基調講演を務めていただいた水谷長志氏に加わっていただき、参加者をも交え議論をおこなっていききたい。

コーディネーターの打診を受けてから新型コロナウイルス感染症の脅威によって、私たちの生活は全世界的に一変した。登壇いただく方々の意識も企画当初とは大きく変容していることと思われ、また参加される方々の意識も変化しているのではないだろうか。現在の社会における〈アーカイブ〉へは期待と不安の両方を抱いている。記録資料の重要性に多くの人々が気付き始めている事実。記録されていたことによる安心感と過去（思い出）に触れることができる感動。一方で、記録されていないことによる不信感、〈アーカイブ〉の存在を知ることが出来ないもどかしさ、アーカイブそのものの消滅。シンポジウムを通じて、〈アーカイブ〉とそれを取り巻く現状の姿を描ければ幸いである。

-
- 1 “疫病の際に絵を描いて見ると良いとされる妖怪アマビエを置いておきますね”というつぶやきとともに、Twitter に投稿されたアマビエの絵が各所で疫病退散のイメージとして流行している。このアマビエが挿図として描かれている資料『新聞文庫・絵』は、京都大学貴重書デジタルアーカイブに収録されている。<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000122>
 - 2 一例として、新国立劇場では「巣ごもりシアター」と称して、過去の講演記録映像を無料配信している。https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017336.html
 - 3 日本では浦幌町立博物館（北海道）が地域の各施設の臨時休館ポスターやテイクアウトの呼びかけチラシなどの収集を始めた。また、デジタルアーカイブ学会が博物館をはじめとする社会状況記録に関心・関連ある組織に向けて、新型コロナウイルス感染症に関する「アーカイブ活動の推進」を提案している。参考：カレントアウェアネス「浦幌町立博物館（北海道）、新型コロナウイルス関係資料の一部を紹介する『コロナな世相』を語り継ごう」コーナーを設置：夏休み期間中には企画展「コロナな時代のマスク美術館」を開催予定」2020年5月26日 <https://current.ndl.go.jp/node/41034>

■ シンポジウムプログラム（案）

13：30～13：35 趣旨説明（阿児）

13：35～14：00 井上氏より話題提供

14：00～14：25 谷合佳代子「草の根アーカイブズの現状と課題」

14：30～15：30 ディスカッション

・質問などはチャットに書き込んでいただき、阿児がそれらをピックアップしてパネリストへコメントを求める。

・事前に、パネリストが互いに聞いてみたいことを1、2点挙げていただきたい。

コーディネーター：

阿児雄之（東京国立博物館 主任研究員）

パネリスト：

井上透（岐阜女子大学教授・元国立科学博物館）

谷合佳代子（エル・ライブラリー 館長）

水谷長志（基調講演者）